

# 日向薬師本堂の修理について ～解体修理でわかったこと～

2013.11.10（日） @ 高部屋公民館

## 1. 修理事業と本堂について

### 事業名

重要文化財宝城坊本堂建造物保存修理事業

### 工期

平成 22 年 11 月～平成 28 年 9 月  
(事業期間 平成 28 年 12 月まで)

### 修理方針

全解体修理（延享 2 年の姿に復原）

### 指定年月日（重要文化財）

平成 7 年 12 月 26 日

### 建物の形式

桁行 7 間、梁間 5 間、一重、寄棟造、茅葺、  
向拝 3 間、銅板葺

### 建立年代

万治 3 年 (1660) 建立  
延享 2 年 (1745) 大改修

### 建物の特徴

- ・ 神奈川県唯一の 7 間堂
- ・ 茅葺屋根
- ・ 外陣が土間床



写真1 本堂正面全景（修理前）



写真3 蟻害による柱の破損



写真2 本堂外陣全景（修理前）

### □ 今回の修理事業はどのような事業なのか

本堂は国から重要文化財として指定されており、国庫補助事業として修理が行われています。

### □ なぜ修理を行うことになったか

蟻害により、本堂の柱など軸部が大きく破損していました。また、茅葺屋根の傷みも激しく、ほとんど土のようになっている部分もあり、今回の修理に至りました。

### □ 全解体修理とはどのような修理なのか

全解体修理とは、一度柱まで全て解体し、解体した部材を一つ一つ補修したのち、また元の通りに組み上げる修理です。今回は、延享 2 年修理時の姿に復原します。

### □ 現在の本堂はいつ建ったものなのか

現在の本堂は、万治 3 年 (1660) に建立され、延享 2 年 (1745) に大きく改修を行われたものです。

### □ 7 間堂の本堂とは

7 間というのは、正面の柱間の数のことを指します。神奈川県内では重要文化財として唯一の 7 間堂であり、全国的に見ても 60 余りしかありません。規模のとても大きな本堂と言えます。

### □ 外陣が土間であること

一般に密教系の本堂は、外陣に床が張られており、土間になっている堂はほとんどありません。重要文化財の中でも大変珍しい形式です。

## 2. 本堂の修理工事について

### □修理工事の流れ

#### ①素屋根をかける

解体中、建物を風雨から守る覆屋を建てます。

#### ②解体前の診断

詳細に建物を調査し、破損状況の確認や、修理方法の決定を行います。

#### ③番付札を打つ

解体前、組立や調査のために番付札といわれる札を打ち、全ての部材に名称・番号を付けます。

#### ④解体

部材を傷めないように養生を行いながら、屋根から建物を解体していきます。

#### ⑤解体中の調査

解体される部材などを一つ一つを詳細に調査・記録していきます。

#### ⑥組み立て方針の決定

解体中の調査を元に、どのような姿に建物を整備するかを決定します。

#### ⑦補修

##### 部材の繕い

矧木、埋木、継木という伝統的な修理方法を用いて部材を補修していきます。

##### 塗装

弁柄や墨などの顔料を用い、部材に塗装を行います。

##### 基礎工事

沈下した礎石の据え直しや、傷んだ石の取替を行います。

#### ⑨組み立て

柱から部材を組み上げていき、最後に屋根を葺き上げます。

#### ⑩修理報告書

修理工事の詳細は、修理工事報告書という本にまとめられ、資料として残されます。

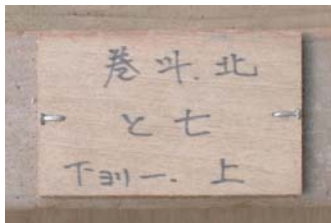


写真7  
番付札  
(6cm×3cm)

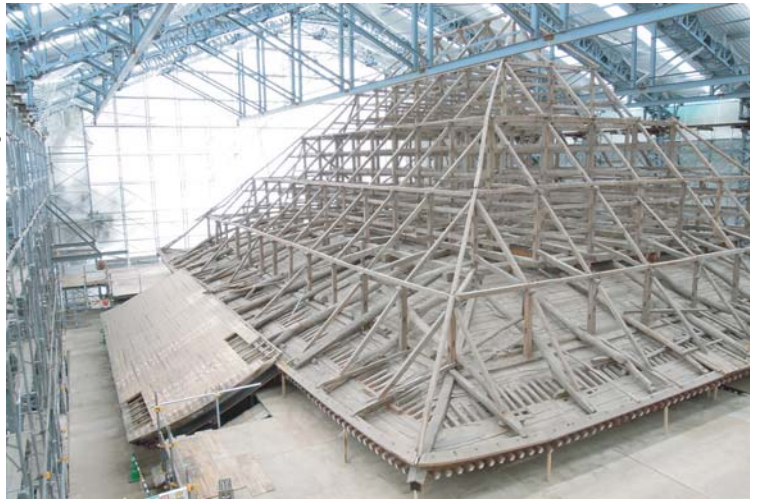


写真4 本堂小屋組



写真5 小屋組解体中



写真6 柱補修中

### □文化財修理は何が特別なのか

文化財の修理では、文化財としての価値を守りながら修理を行う必要があります。つまり、残されてきた材料や技術をどれだけ維持することができるかということが重要になります。傷んだ部材を安易に取り替えることはできません。伝統的な技法や材料を駆使し、これまで長い間残され伝えられてきたものを、できる限り残す修理を行わなければなりません。そのためには、非常に多くの手間と時間がかかります。

### 3. 修理を通して明らかになったこと

#### 宝城坊の歴史

時代	年号	出来事	調査からわかったこと
奈良	霊亀 2年 (716)	行基により霊山寺開創	<p>④ 頼朝時代の部材を発見！</p> <p>③ この頃すでに規模の大きな本堂があったことが判明！</p> <p>② 建立当時の詳細が判明！</p> <p>① 修造に関する詳細が判明！</p>
平安	10世紀頃	元正天皇、堂宇造営し勅願寺とする	
	天曆 年間 (947-)	木造薬師如来両脇侍像開眼	
	天曆 6年 (952)	村上天皇、仏閣僧坊を造営	
	天曆 6年 (952)	村上天皇、銅鐘を鑄造	
鎌倉	仁平 3年 (1153)	鳥羽上皇の院宣により、銅鐘を改鑄	
	12世紀頃	木造十二神将立像（県指定）造立	
	建久 年間 (1190-)	後鳥羽天皇、源頼朝に令を下し堂宇を修造	
	建久 3年 (1192)	源頼朝、政子の安産祈願に神馬を奉納	
	建久 5年 (1194)	源頼朝、娘の病氣平癒祈願に参詣	
	承元 4年 (1210)	政子、参詣	
	建暦 1年 (1211)	政子、実朝夫人、参詣	
南北朝 室町	13世紀頃	薬師如来坐像、日光・月光菩薩立像、阿弥陀如来坐像、四天王立像造立 厨子建造（すべて国重文）	
	弘安 1年 (1278)	藤原定吉、源氏女が日向七所権現に懸仏を寄進	
	暦応 3年 (1340)	銅鐘（国重文）を改鑄	
	延文 2年 (1357)	十二神将立像（国重文）を勧進	
	延文 2年 (1357)	唐櫃（県指定）奉納	
	正平 19年 (1364)	足利尊氏の子、基氏が大幡（県指定）を奉納	
安土桃山 江戸	康暦 2年 (1380)	後円融天皇、綸旨により三河、遠江の棟別銭を以て堂宇を修造	
	天正 19年 (1591)	秀吉より 60 石の朱印を賜る	
江戸	万治 3年 (1660)	幕府より丹沢の立木 100 本を賜り、本堂を修造	
	元禄 2年 (1689)	本堂正面棧唐戸 修理	
	延享 2年 (1745)	本堂修造、仏像修理	
	18世紀頃	鐘堂建立	
	天保 4年 (1833)	仁王門焼失、再建 金剛力士像（市指定）造立	
明治	19世紀頃	向拝修理	
	明治 3年 (1870)	宝城坊を残し、他の坊が廃絶	

#### ①延享2年の本堂修造について明らかになったこと

今回、延享2年修造の本堂は、万治3年に建立された本堂を大きく改修したものであるということがわかりました。その本堂が現在の本堂です。

解体中に、部材から年号の書かれた墨書が数点発見され、改修が裏付けられました。また本堂には、以前の本堂で使われていた多くの部材が再び使われており（「転用」という）、今回の解体修理に近い



写真8 外陣架構の意匠

修理が当時行われたと考えられます。痕跡調査などから、修理の詳細を明らかにすることができました。柱間寸法など基本的な計画は変更せず、外陣架構の意匠（デザイン）がより華やかに変更され、床も床板張りから土間床となりました。万治の本堂で使用されていた柱や縁、組物などは、主に背面側に回され、他の部材は、床下や小屋組などの見えない場所に使われました。

## ②万治3年の本堂修造について明らかになったこと

延享修理時に転用されていた部材から、以前の姿を一部復原することができます。万治期の本堂は、正面に縁が廻り、外陣に床が張ってありました。現在の床下に虹梁という、旧は外陣架構（写真9）に使用されていた部材が転用されており、それから万治の意匠も判明しました。ご本尊や厨子、多くの仏像が納められていた内陣は、現在とほとんど変わっていないと考えられます。



写真9 万治の外陣架構復原

## ③康暦2年の本堂について

この時代の修理については、古文書に記述が残っているのみで、その事実は確認されていませんでした。今回、小屋組や床下などの見えない部分に、この時代の部材（写真10）が多く転用されていることが明らかになりました。隅木や丸桁、頭貫、尾垂木、通肘木という部材が見つかり、規模の大きな、格式の高い本堂が当時建造されていたと考えられます。



写真10 床下の転用材（手前から頭貫、隅木）

## ④頼朝時代の部材を発見

今回発見された転用部材を対象に科学年代調査を行ったところ、源頼朝の時代に伐採された部材（写真11）があることが確認されました。吾妻鏡によると、この頃、源頼朝や政子が日向薬師を参詣したとされており、本堂の造営に源頼朝が関わっている可能性もありますが、明確な根拠は何も残っておらず、その事実はわかりません。



写真11 鎌倉時代の部材（枿肘木）

## □おわりに

今回の修理から、万治に建立され延享に修理されたと伝えられる本堂の由緒が明らかになったと同時に、より古い中世の時代から本堂は繰り返し修理を行い、現在に至っているということがわかりました。日向薬師宝城坊には、平安時代にはすでに薬師如来像や四天王、十二神将像などが伝えられ、これらのご像が安置される本堂も必要であったと考えられます。今回明らかになった事実は、その本堂の存在を断定はできませんが、可能性を示していると思います。

今後、調査や研究が進むことでこれらの本堂の存在が明らかになればと期待しています。